

協會を無視したる場合は十萬圓の違約金を徴收すること、若し之に應せざる場合は違約社所有の輪轉機を差押ふる事」等を骨子としたる規約に背反したる理由に依り「廣告取次其の他の方面に於て聯盟加入の社は自今萬朝報と一切同一の行動を執らず」との申合せをなしたり。

東京日日社の争議

茲に注目すべきは東京日日新聞工場の争議にして同社は自工場に一の正進會員なきを以て「我工場は決して正進會運動の渦中に巻き込まるゝ虞れなし」と誇りぬたるに同工場の文選工は卒先して、別に正進會と連絡することなく、萬朝報工場の勝利を得て間もなく、回答日を九日に指定して單獨に二特間二部制及最底賃銀決定に關する要求を提出したり、回答日當日職工代表小野田外五名對馬主幹に會見したる所、對馬氏は「我工場の對遇は他工場に比して優る點多く劣れる點なし」とて縷々と説述し要點に觸れざるため職工團は之を誠意なし」と責めたるに若し諸君が余に誠意なしと云はゞそは信不信の問題なり余を信せざる人は退社せらるゝも止むを得ず」と申渡したり。茲に於て同日夕刻文選工全部は遂に退場したり。爲めに同社は地方改版を中止し非常の苦心を以て休刊を免れ十五日に至りて十二名の解雇を發表し版組も常態に復したり。

讀賣新聞社の困惑

激烈なる争議の一たる讀賣新聞工場の最後の談判は東京日日の退場したる翌十日に破裂したり。之に對し同社は製版部職工全部六十三名の解雇を發表し、中五十一名に對しては明十一日午前十時迄に出社せば詮衡の上再雇傭をなすべし」と申渡したり。即ち同社に於て誠首

せんと欲したるは「自今貴下との雇傭關係を斷絶す」云々の最後過版を發したるもの十二名にして鎮靜後更に七名を復歸せしたれば結局五名の犠牲者を出したるに過ぎず、同社が十日製版部全工の退場に遭ひ、他社工場より死型を搬入する等周章狼狽を極め、講談面の方途つかず窮餘の末、市内印刷所の助力を伯ぐべく先づ増田義一氏を通じて日清印刷所に依頼したるも同所經營者は「渦中に投ずるの虞れあり」とて肯せず、止むなく秀英舎に懇請して辛じて十一日の市内版を糊塗し爾後數日地方版を中止するの餘義なきに到れり。

正進會の宣言

新聞聯盟協會理事會は連日和合亭に開かれ正進會の運動を喰ひ止むべく種々の對策を擬議し、一方正進會側は京橋八丁堀貸席川崎屋に會合して戰略を巡らし、聯盟協會は最初より正進會の運動を輕視しぬたるに拘らず、萬朝報に於て奇勝を收め、一人の正進會員なしとて豪語したる東京日日の工場を憤起せしめ更に讀賣を窮地に陥れたるに氣勢昂り、更に自餘工場の氣勢を煽り運動を熾烈ならしむるため、讀賣新聞に於て、製版部全員退場したる翌十一日附を以て正進會は左の宣言を發したり。

宣言

過日報知新聞社工場内に於ける紛議に就ては我が正進會たるもの敢て暴力を望むものにはあらざれども唯だ我等は飽くまで社會的正義の命する所に從て我等が人間的生存の權利を欲求する一階梯として二部八時間制最低賃金を主張し彼等の頑冥固陋なる非公器